

地域再生計画評価調書（令和3年度）

■大阪市地域再生エリアマネジメント計画

●大阪駅周辺地区における数値目標及び目標達成度

評価指数 (KPI)		事業開始前	2019年度 増加分 (1年目)	目標数値、実績値及び目標数値に対する達成度								2021年度KPI達成状況及び分析	
				2020年度 増加分 (2年目)	2021年度 増加分 (3年目)	2022年度 増加分 (4年目)	2023年度 増加分 (5年目)	2024年度 増加分 (6年目)	2025年度 増加分 (7年目)	2026年度 増加分 (8年目)	KPI増加分 の累計		
目標1	エリアマネジメント団体の新規法人化	目標	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	今年度新たに法人化されたエリアマネジメント団体はないが、すでに目標以上の団体が法人化しており、大阪駅周辺地区においてエリアマネジメント活動が活性化されていることが伺える。
		実績	1	2	1	0						3	
		達成度											
目標2	都市再生推進法人の新規指定	目標	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	新たに1団体が都市再生推進法人に指定され、今後、大阪駅周辺地区におけるエリアマネジメント活動が活性化される見込みである。
		実績	1	0	0	1						1	
		達成度											
目標3	歩行者通行量の増加(人) ※1 ※2	目標	—	15,000	5,000	800	800	800	800	800	800	24,000	歩行者通行量は増加傾向にあり、今後の賑わいの回復が期待される。
		実績	—	▲34,000	13,500							▲20,500	
		達成度											
目標4	大阪駅周辺地区における 商業施設等の売上高の増加(千円) ※2	目標	—	75,000	25,000	—	—	—	—	—	—	100,000	今回のイベントへの参加者アンケート調査の結果、大阪駅周辺地区での消費額が1人当たり平均約6,600円、来訪者が約14,000人となっており、商業施設等の売上高が昨年度を大きく上回っている。
		実績	—	64,092	29,073	—	—	—	—	—	—	93,165	
		達成度											
目標5	大阪駅周辺における 地域来訪者等利便増進活動計画(案) に対する想定受益事業者の同意率(%)	目標	—	—	67	—	—	—	—	—	—	67	エリアマネジメント団体による「地域来訪者等利便増進活動計画」の作成が次年度以降となったため、想定受益事業者が確定されなかった。
		実績	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	
		達成度											

※1：地方創生推進交付金事業開始前の通常時歩行者通行量：63,000人

※2：目標値及び実績値は前年度からの増加分

●評価年度において実施した事業

<p>■事業名称 梅田あるくフェス2021</p> <p>■開催期間 日程：2021年10月1日(金)～10月31日(日)</p> <p>■会場 大阪梅田各所</p> <p>■事業内容</p> <p>○イベント内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 「歩いて繋がる“well-being”(ウェルビーイング)な毎日」をキーワードに、「運動」や「食」、「心」や「生活」等、多様な視点から発信。 ①まち巡りラリー(10月1日～10月31日) 「梅田あるくフェス」専用アプリを使用して行う、梅田あるくフェス主要3会場を巡るデジタルウォークラリーの開催。 ②幸せ育む 食の楽しみ フードマーケット / 会場：阪急サン広場(10月16日) 「食」の健康を主なテーマとして、体験・購入ができるプログラムを展開。 ③自分高める 充実のレッスン ヘルシーラボ / 会場：JR大阪駅5F 時空の広場(10月24日) 「身体」の健康を主なテーマとして、体験ができるプログラムを展開。 ④気持ち整う 癒しのメンテ リフレッシュパーク / 会場：阪神梅田本店東会場(10月30日) 「心」の健康を主なテーマとして、体験やリフレッシュができるプログラムを展開。 <p>○調査内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 周辺歩道の歩行者交通量調査 事業開始前と同一箇所での各会場イベント開催日(10月16日、24日、30日の3日間)の歩行者通行量を測定。 来訪者アンケート調査 調査項目 梅田地区への来訪頻度、よく立ち寄る商業施設、買い物・飲食の出費額等について、梅田地区関心層と、梅田あるくフェス参加者を対象として実施。 調査方法 梅田地区関心層を対象とした調査(サンプル取得目標数：400サンプル) WEB登録されているモニターから、過去1年間で平均して月1度以上、梅田に来訪(通勤・帰宅途上での梅田立ち寄り含む)して、買い物、飲食、娯楽、習い事、散策等を行った方を対象。 調査期間は阪急サン広場会場イベント後(2021年10月) 梅田あるくフェス参加者を対象とした調査(サンプル取得目標数：400サンプル) 会場イベント開催当日のイベント参加者及びまち巡りラリーの参加者を対象

●評価年度における事業の結果

<p>■イベント結果</p> <p>来訪者：14,116人(計測方法：各イベント会場での計測の合計)</p> <ul style="list-style-type: none"> イベント参加企業、団体との連携 参加・協力団体：23団体(100名) 地域連携 大阪府健康づくり支援プラットフォーム整備事業等である、大阪府民の健康をサポートするアプリ「おおさか健活アスマイル」と連携し、アスマイルアプリ及びwebページで「梅田あるくフェス」の開催告知を行い、各会場のInfoブースではアスマイルのチラシ設置やイベント来場者へのアスマイルポイントのプレゼントなどを行った。 広報連携 以下の各媒体によりイベント開催及び実施報告を掲載。 ・鉄道沿線情報誌 1社 ・HPでの掲載 11社 <p>■調査結果</p> <p>事業開始前と同一箇所でのイベント当日の歩行者通行量(10時～19時の9時間交通量)：42,500人(前年度から13,500人の増)</p> <p>来訪者アンケート調査サンプル取得数 梅田地区関心層を対象とした調査：400サンプル(目標数：400サンプル) 梅田歩くフェス参加者を対象とした調査：400サンプル(目標数：400サンプル)</p> <p>■事業分析</p> <p>昨年度実施した内容から以下の点を改善したことにより、来訪者数等の増加や経済効果の向上がみられた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 梅田あるくフェスの開催期間を1か月間とするとともに、各会場でのイベントを各週末で開催することにより、まち巡りラリーへのエリア内のワーカークラスの参加やイベントに参加する来訪者の増加による経済効果がみられた。 イベント開催の告知を早期に開始したことにより、来訪者数の増加がみられた。 各会場でのイベントコンテンツを充実させたことにより、各会場への来訪者数の増加がみられた。 上記取組の結果、梅田地区への来訪者が増加したことにより、イベント参加者のアンケート調査母数も増加し、地域来訪者等利便増進活動計画の作成を行うにあたり必要なデータを得ることができた。

●評価年度における評価結果

<ul style="list-style-type: none"> 今回実施した際の参加者アンケート調査により、今回のような健康イベント開催が定常化したら、梅田に来る機会が増えるとの回答は約97%と昨年度に引き続き高い値となっており、事業の有用性は確認しているところである。 イベントコンテンツの充実等により来訪者は増加しており、健康増進イベントの定期的な開催により、地域価値の向上が期待できる。 エリアマネジメント団体においては、2ヶ年による社会実験の実施により、受益額及び受益事業者に係るデータ収集ができたことから、地域来訪者等利便増進活動計画の作成を行う必要がある。また、次年度以降も引き続きより多くの方に来訪いただくよう、イベントコンテンツの充実を図るとともに、引き続きデータ収集を行い、事業分析を行っていく必要がある。 行政としては、エリアマネジメント団体が地域来訪者等利便増進活動計画を作成できるよう引き続き支援していく。
--